



健康状態に関して



◇ 保育中の発熱、急病、事故の場合の連絡方法の徹底

自宅・父母の勤務先の電話、又は必ず連絡のつく電話番号を担当に知らせておいて下さい。(原則として 38.0℃以上の発熱の場合は連絡し、1時間以内のお迎えをお願いします。)

◇ 連絡カード

乳幼児共、毎朝連絡カードにて、お子様の体調等把握させていただきますので 忘れないようお願いします。毎朝、正しく検温し平熱の把握もしておきましょう。又、座薬で一旦熱を抑えて登園の場合は、必ずそのことを職員にお伝えください。熱が上がった場合は速やかにお迎えをお願いします。看護師が配置されていない為、病児保育は責任上出来ませんのでご了承下さい。また、アレルギーを持つお子さんの体調の悪い時には、朝必ず職員までお伝えください。

◇ 家庭保育のお願い

風邪・下痢・咳がきつい・熱がある・投薬を必要とする等、集団生活に支障があるような場合は、ご家庭で保育して頂きますようお願いいたします。
(原則として、薬は受け付けません。お医者さんに相談して頂きどうしてもお昼のお薬が必要な場合は、添付の資料を参考にして下さい。)

◇ 持病のあるお子さん

必ず担任に届けておいて下さい。

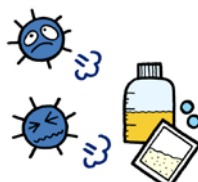
【例えば：アレルギー・ひきつけ(熱性けいれん)・脱臼・てんかん・心臓病等】

◇ 感染症発生時の処置

集団生活で感染症にかかった場合は、必ず医師の指示に従い、適切な処置を取ってください。又、園所定用の紙を医師に提出して頂き、登園許可が出るまで自宅療養して下さい。 ※感染症が発生した場合は、掲示しますのでご注意下さい。

全ての感染症には、病原体が感染してから発症するまでの潜伏期間があり、疾患によっては潜伏期から治癒した後まで病原体が体内より排出される事もあるので、この期間は感染しやすくなります。

保育園は、乳幼児が集団で生活する施設であるので、『感染症を広げない』事に細心の注意を払って保育しています。感染症の伝染を予防するため、疑わしい症状のお子さんがおられた場合、時には家庭保育をお願いする事もあります。どうぞご理解とご協力をお願い致します。



- 2 1 -



(2017. 3.17 差し替え)

感染症の病気と登園のめやす



感染症の病気の場合は学校保健安全法に準じ、他の子どもへの感染を防ぐと共に病気にかかった子どもが集団生活に適応できる状態に回復する様、保育園を休んでいただきます。

感染症の病気で休んでいただく期間は以下の通りです。しかし、これはおおよその目安であり、個々の子どもにより回復の期間などには差があります。そのため、病後の保育園への登園は医師の指示に従ってください。下記の他にも感染症の病気がありますので、医療機関では必ず保育園に通っている事を伝え、診察を受けてください。

『登園届』に記載されている病名につきましては、病院を受診後必ず提出してください。

㊤ 登園停止が必要な感染症

病名	主な症状	登園の目安	潜伏期	感染経路	感染しやすい期間
はしか (麻疹)	発病2～3日間は38℃前後の発熱、鼻水、咳、目やにが出る。 一度熱は下がるが半日もすると再び39～40℃の高熱、発疹が出る。	熱が下がり 3日を経過 してから	10日 ～11日	空気感染 飛沫感染 接触感染	発熱が出る1～2 日前から発疹が出 てから4日間
風疹	発熱と同時に発疹が出て、耳の後ろや首のリンパ腺が腫れる。発熱、発疹は3日間位でなくなる。	発疹がなく なってから	16日～ 18日	飛沫感染	発疹が出る7日前 から出た後の7日 間
水ぼうそう (水痘)	発疹が全身に出て水疱となる。約1週間後には、全部がかさぶたになる。不機嫌、食欲不振、発熱を伴う事もある。	全ての発疹 がかさぶた になっ てから	14日～ 16日	空気感染 飛沫感染	発疹が出る1～2 日前から全ての発 疹がかさぶたにな るまで
おたふくかぜ (流行性耳下腺炎)	1～3日間微熱が続き、多くは片方の耳下腺が軟らかく腫れ、軽い痛みがある。2～3日経つと反対側も腫れてくる事もある。	耳下腺、顎 下腺又は舌 下腺腫脹が 発現した後 5日を経過 し、かつ全 身状態が良 好になっ てから	16日～ 18日	飛沫感染	耳下腺の腫れる7 日前から腫れた後 9日間

病名	主な症状	登園の目安	潜伏期	感染経路	感染しやすい期間
百日咳	風邪の様な症状が1～2週間続き、次第に咳が激しくなる。夜間に咳が多く、顔を真っ赤にして苦しがり嘔吐することもある。	特有の咳が消失するまで又は5日間の適正な抗菌性物質剤による治療が終了してから	7日～ 10日	飛沫感染	咳が出始めてから2週間、抗菌薬内服開始後7日間
インフルエンザ	突然高熱が出て寒気、頭痛、関節痛等がおきる。咳は回復期になって出てくる。食欲不振や不機嫌程度の症状の時もある。	発症した後5日を経過し、かつ解熱した後3日を経過してから	1日～ 4日	飛沫感染	発病前1日前から発病後3日の間
咽頭結膜熱 (プール熱)	高熱と共にのどの痛みと赤みを伴い、目の充血、目やに、涙目。頭痛、食欲不振、全身倦怠感を伴う事もある。	発熱や目の症状がなくなり2日を経過してから	2日～ 14日	飛沫感染 接触感染 経口感染	発病後2～数週間
RSウイルス	鼻汁、咳、喘鳴、細気管支炎、肺炎。 特効薬はなく対症療法。 0, 1歳児がかかると重症化しやすい。	呼吸器症状が消失し、全身状態が良好になり、主治医が登園を認めてから	4日～ 6日	飛沫感染 接触感染	3日～8日
流行性角結膜炎	目の充血、目やに、涙目。乳幼児は発熱、不機嫌を伴う。感染力が非常に強い。	目の症状がなくなり、主治医が登園を認めてから	2日～ 14日	飛沫感染 接触感染	初期数日が最も多いが、その後数ヶ月続く事がある。
急性出血性 結膜炎	急性の結膜炎症状（目の充血、目やに、涙目）で、結膜出血が特徴。	目の症状がなくなり、主治医が登園を認めてから	1日～ 3日	飛沫感染 接触感染	ウイルスは咳や鼻汁から1～2週間、便からは数週間～数ヶ月間排泄される。発症後2週間

腸管出血性 大腸菌感染症	腹痛、水溶性下痢及び血便を呈する。嘔吐や発熱を伴うこともある。	症状が治まり、かつ抗 菌薬の治療 が終了し、 48時間あ けて連続2 回の検便に よっていず れも陰性が 確認された もの	3日～ 4日	汚染食品 による経 口感染、 糞口感 染、患者 や保菌者 の便から の二次感 染	便中に菌が排出さ れている間
-------------------------	---------------------------------	--	-----------	--	-------------------

その他に、ポリオ、ジフテリアなどの第1種感染症（学校保健安全法施行規則より 以下同）は「治癒するまで」、第2種感染症の結核、第3種感染症のコレラ、細菌性赤痢、腸チフスなどは「医師により感染の恐れがないと認められるまで」が登園の目安となっています。

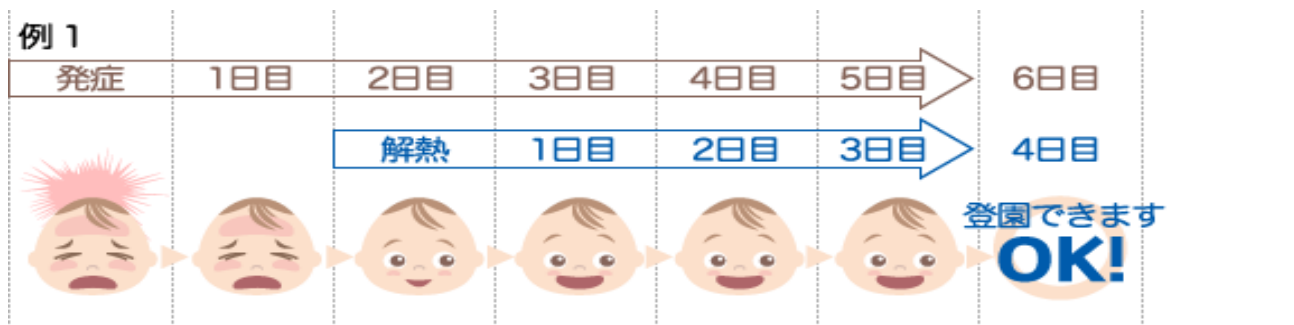


㊦ 条件によって登園停止の措置が必要と考えられる伝染病

病名	主な症状	潜伏期	登園・登校停止期間のめやす	
ヘルパンギーナ	口腔内粘膜疹 高熱・咽頭痛	2～7日 (平均3日)	症状は改善し、医師により伝染のおそれがないと認められるまで	
手足口病	発熱・舌や頬粘膜 に水泡や発赤疹	2～7日 (平均3日)		
溶血性レンサ球菌感染症	高熱・のどの痛 み・嘔吐・腹痛	1～7日	症状は改善し、医師により伝染のおそれがないと認められるまで ・妊婦の感染に注意 ・急性期の症状の変化にも注意	
伝染性紅斑 (りんご病)	発疹・関節痛	17～18日		
マイコプラズマ肺炎	乾いた咳 発熱	2～3週間		
乳幼児下痢症 (ノロ・ロタウイルス)	嘔吐・下痢	1～3日		
突発性発疹	発疹・関節痛	17～18日		



【豆知識/インフルエンザの時の登園目安例】



◎通常登園停止の措置は必要ないと考えられる伝染病

病名	主な症状	感染経路	留意事項
アタマジラミ	掻痒感。また、引っ掻き傷から化膿したり、湿疹になる事もある。	接触感染（頭と頭の直接感染で人から人に感染） 間接感染（衣服や寝具、帽子等に付いて感染する）	シラミの駆除。爪切り。タオル、くし、ブラシの共有をさける。着衣、シーツ、枕カバー、帽子の洗濯と熱処理。発見したら一斉に駆除することが効果的である。
水いぼ	境界明瞭で表面につやがあり、半球状でえんどう豆大までのいぼ。免疫が出来るまで出没を繰り返す。	接触感染（皮膚の接触やタオル等を介して）	原則として、プールを禁止する必要はない。 しかし、二次感染のある場合(かきむしって汁が出ている、傷口がある等)は禁止とする。 多数の発疹のある者はプールでビート板や浮き輪の共有をさける。
とびひ	薄い皮の大小色々な水疱、又は黄色いかさぶたのある発疹。痒みを伴い掻くと広がる。	皮膚化膿巣からの接触感染	病巣の処置と被覆。共同の入浴やプールは避ける。炎症症状の強いものや広範なものでは、病巣の被覆を行い直接接触を避けるよう指導。